

あなたの思い、 伊仙町の明日につなぐ

ゆっくりと流れる雲。
鳥の声に目覚め、夕陽に包まれて一日を終える。

伊仙町の暮らしは、
自然とともに息づく時間の積み重ね。
その中で育まれる絆と優しさが、
この町を豊かにしています。

自然豊かな世界自然遺産のまち

令和3年7月に「奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されました。豊かな亜熱帯の森には、アマミノクロウサギをはじめとする動植物が数多く生息し、未来へと守り伝えていくべき大切な自然が息づいています。世界的にも貴重な生態系を有するこの島は、まさに「地球の宝」と呼べる存在です。



長寿・子宝のまち

伊仙町は、平均寿命・長寿率ともに全国的に高く、長寿の町として知られています。また、出生率が高いことから「子宝の町」としても注目され、命のつながりを感じる事ができる町です。先人達の知恵と文化を継承しながら次世代を育み、未来をつくる町として歩みを進めています。



全国の皆さま
伊仙町に応援していただき
誠にありがとうございます



令和6年度ふるさと納税実績報告

令和6年度寄付実績
2,257件/46,107,500円



伊仙町きばらでえ応援基金

皆さまからいただいた寄付金は、一旦「伊仙町ふるさと応援基金」として積み立て、その中から「きばらでえ伊仙応援金」として、まちづくりに関する各事業へ活用しています。

心より感謝申し上げます

全国各地の皆さまからいただいたご寄付は、子どもたちの未来を育み、長寿の町を支え、そして、世界自然遺産に登録された豊かな自然を守る大きな力となっています。

皆さま一人ひとりの想いが、この小さ

な町のあちこちで形になり、学校の笑顔、地域のにぎわい、環境を守る活動へと広がっています。

この町には、人と人との繋がりや、生命（いのち）を育む豊かな自然と共生する文化、都会では感じられない確かな豊かさが息づいています。皆様からのご厚意は、その豊かさを未来へと受け継いでいく礎です。

これからも伊仙町は、皆さまの想いに応える町づくりを進めてまいります。引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

ふるさと納税寄付金の使い道

	(千円)
特産品開発	7574
健康増進	1134
環境保全	3902
文化の保存継承	1545
子育て支援	8418
青少年育成	1022
観光および定住促進	2733
その他、町長のおまかせ	19777

寄付の方法

伊仙町へのご寄付は、直接お申込みいただくか、または以下のポータルサイトからお申し込みいただけます。

- 1.さとふる
- 2.LINEヤフー
- 3.楽天
- 4.ふるさとチョイス
- 5.auPAYふるさと納税
- 6.セゾンのふるさと納税
- 7.KABU&ふるさと納税
- 8.ふるラボ
- 9.Vふるさと納税
- 10.モンベル
- 11.旅先納税
- 12.ふるなび
- 13.JALふるさと納税
- 14.ANAふるさと納税

14サイト





健やかな成長を願うこと

子育て支援金給付事業

9,799,149円

伊仙町では、子どもたちの誕生を町全体で祝い、健やかな成長を見守ることを大切にしています。2006年度に創設された「子育て支援金制度」は、長年にわたり多くの子育て世帯を支えてきました。その後、全国の皆さまからお寄せいただいたふるさと納税のご厚意を基金として活用し、2024年度の支給から大幅に増額しました。現金・商品券・おむつ代相当分を含めた支給額は、第1子は従来の5万円から15万円

に、第2子は10万円から20万円に、第3子は15万円から30万円に、第4子以降は最大15万円を40万円～最大55万円に増額しています。

令和6年度は、43件 9,799,149円の支給があり、町内の多くのご家庭に笑顔が広がりました。「おむつやミルク代、洋服などに使えるのでとても助かります」と保護者は穏やかな笑顔を見せてくださいました。



「おいしい」を分かち合うこと

DISCOVER TOKUNOSHIMA2024

1,161,307円

徳之島の豊かな自然が育んだ農畜産物の魅力を広く発信するため、JAあまみ天城事業本部・JAあまみ徳之島事業本部を主体に、3町協力のもと「ディスカバー徳之島2024」事業を展開しています。本事業は、食材を活用した新メニューや加工品の開発を通じて、販売単価や認知度の向上、販路拡大、農家の生産意欲の向上、そして交流人口の創出を目的としています。8月に都内7店舗の高級料理店で「徳之島フェア」を開催し徳之島産食材をふんだん

に使った特別メニューを提供。コープデリやホテルオークラのカタログにも徳之島産の食材が掲載され、ブランド力向上に繋がりました。また、バイヤー商談会や産地視察、加工品開発などを行い、販路拡大を推進しました。さらに、「直売所 百菜」では、伊仙町産食材と骨付き豚あばら肉を使った“島らしさ”あふれる新メニューを開発。調理行程の効率化や味の安定化も図り、徳之島の味をより多くの人へ届ける取り組みが進められています。





島の恵みを 「美食」として発信すること

ふるさとレストラン事業

3,100,000円

伊仙町では、伊仙町産黒毛和牛や島野菜、果物などの食材を、東京をはじめとする有名レストランで提供する「ふるさとレストラン事業」に取り組んでいます。シェフたちは、島の食材を活かした伊仙町ならではのコース料理を創り出し、徳之島の豊かな自然と生産者の想いを“美食”として発信しています。また、新たに参加するレストランのシェフには、実際に伊仙町を訪れていただき、畑や畜舎を巡りなが

ら、素材の魅力や生産のこだわりを肌で感じてもらうことで、新しい料理のヒントが生まれ、生産者にとっても貴重な学びの機会となっています。島の恵みがプロの技によって磨かれ、遠く離れた都会で「伊仙町の味」として輝く――。

ふるさとレストラン事業は、そんな“出会い”と“気づき”から始まる、未来へつながる食の物語です。



島の歴史と風景を、 より深く感じてもらうこと

観光地充実度アップ事業

1,062,457円

伊仙町では、町内の観光地を訪れる方々に、より充実した時間を過ごしてもらうため「観光地充実度アップ事業」に取り組みました。

本郷かまと生誕の地（木之香）や前里屋敷（阿権）、そして犬田布岬休憩所において、案内看板や展示パネルを新たに設置し、島の歴史や文化、自然の魅力を分かりやすく伝えています。特に、犬田布岬休憩所の資料展示室には、慰霊塔建立に至るまでの紹介パネ

ル3枚と、展示写真のフレーム4枚も新調しました。訪れる人々の恒久平和を祈る場としても親しまれています。令和6年度は、7月から翌年3月末までに762名が入館し、多くの方に島の物語を感じていただくことができました。

静かにたたずむ風景の中に、島の歴史とぬくもりを伝える新しい「学びと発見の場」が生まれています。





郷土の歩みを未来へつなぐこと

伊仙町誌編纂事業 3,200,000円

伊仙町では、45年ぶりに「伊仙町誌」の編纂を再開しました。令和3年度から資料集①「更生の伊仙村史・伊仙町誌復刻版」、資料集②「徳之島上国日記集」を順次刊行し、今回の資料集③「伊仙町広報誌縮刷版」の発刊をもって資料集の刊行を完了しました。これにより、本体編集・発刊へと着実に歩みを進めています。資料集③では、昭和40年から45年分の広報誌を復刻・製本し、住民の皆さまが手に取りやすい形で提供しました。郷里への思いや個

人の思い出が蘇ることで、伊仙町への誇りを再認識していただくとともに、小中高生にとっては、過去を学ぶ貴重な教材として活用されています。

今回の資料集刊行を通じて、住民や出身者に町の変化や歴史を伝えるとともに、未来の伊仙町を考えるヒントを提供できました。令和版伊仙町誌本体完成の前段階として、町の歩みを幅広く伝え、今後の資料作りや学びの基盤を築く重要な成果となっています。



魅力を発信し、町全体を盛り上げること

きばらでえ伊仙応援基金事業 20,979,830円

伊仙町の寄付額確保と安定的な制度運営に向けた取り組みに寄付金を活用しました。今年度は、ふるさと納税制度を取り巻く競争環境が厳しくなる中でも寄付額を伸ばせるよう、まずはポータルサイトの掲載数を拡大し、多くの寄付者の目に触れる仕組みづくりを進めました。これにより、伊仙町の返礼品の魅力幅広く発信する体制を整えることができました。また、近年の物価高騰により返礼品の送料・材料費の増加が見込まれたこと

から、寄付額や経費率の見直しを実施し、事業者が継続して返礼品を提供できる仕組みづくりに努めました。特に寄付額が多い「ふるさとレストラン事業」については、委託業者との定期的なミーティングを重ね、戦略的な寄付額設定や訴求方法の検討を行い、寄付額増加を目指しました。さらに、寄付者の利便性と役場側の事務負担の両立を図るため、チケットの有効期限を年度末に統一するなどの運用改善を行い、効率化につなげました。

